

記入日：令和2年8月21日

所在地（都道府県/市町村）：栃木県小山市乙女625-2		
法人名：社会福祉法人パステル		
施設・事業所名：CSW おとめ		担当者名：石橋須見江
事業種類：福祉サービス事業		
主たる障害：知的障害		令和2年3月末現在 定員：60人
TEL： 0285-39-6088	FAX： 0285-39-6188	E-mail： info@fukushi-pastel.jp

① 令和元年度までの主な取り組み内容

<p>就労継続B型事業：レストラン・パン工房（パン・ケーキ・クッキー）・農業・桑の葉製茶</p> <p>生活介護：パウダー（桑の葉・かんぴょう）・織物・パソコン・農業</p>

② 施設・事業所における新型コロナウイルスの影響

<p>レストラン来客者の減少及びパン販売先の減少による収入の減少は明らかである。</p>
--

③ コロナ下において新たに始められた取り組みの内容

<p>取り組み1： レストランにおける弁当のテイクアウト 法人内グループホームの夕食配達</p>
<p>取り組み内容：</p> <p>テイクアウトのためのメニューを用意し、PRをした。</p> <p>PR方法として、ご近所のポスティング・スーパーマーケットへの納品の実施。</p> <p>結果として、テイクアウトの弁当をレストランに取りに来るお客様の増加が見られた。</p> <p>スーパーマーケットへの納品は、朝・昼の納品として1日30～59個の納品を継続している。</p> <p>法人内グループホームの夕食は、外部委託であったものを法人内で実施することにより安定的収入を見通すことができる。</p>

取り組み2：織物班におけるマスクづくり

<p>取り組み内容：</p> <p>ボランティアの方々が中心となりマスクづくりを行い、地域の小山市・野木町にマスクを寄付した。寄付が契機となり注文が殺到し、現在も継続している。</p> <p>現在は、ボランティアの方々及び織物班の職員・利用者によって製作をしている。納品先は、小山市・野木町を中心として道の駅はじめ6店舗に納品している。その後、マスクの残布を利用してパッチワークの作業にも取り組み始めた。</p>



④ ③の取り組みを始めたきっかけ・工夫した点

取り組み1

レストランのお客様の激減・パンの販売先の減少

テイクアウトは、保護者のご家庭とご近所へのポスティングから始めた。

スーパーマーケットとの契約は、弁当・パン・ケーキ類まで納品幅を拡大した。

法人内グループホーム夕食は、安定的収入を見通すことができた。

取り組み2

マスク不足の3月に、織物班に寄付していただいた布やゴムがあるので、布を地域の皆様にも呼びかけご寄付いただきスタートした。地域の皆様のご厚意によるマスクが出来上がったので小山市・野木町にご寄付をしたところ新聞掲載があり、多くの皆様からの注文が殺到し、マスクづくりが仕事となった。3月から8月と季節に応じたマスクづくりの工夫をしているので注文が切れずに、現在も続いている。

⑤ 取り組みの効果（売上や顧客、利用者、職員、地域等における効果）

1 レストラン部

店舗売り上げは、わずかに来客が増加している。収入額は、前年度比において6月は90%まで回復している。そのために利用者・職員等には影響が出ていない。但し、レストランの客数を20席に限定し、ランチコンサートやディナーコンサート研修会等の交流センター会場貸し出しなどは、自粛しているので来客数は減少している。一方、テイクアウトの食事など取りにくるご近所の方も多くなってきた。

2 マスクづくり

3月から始めたマスクづくりは、販売数は、すでに5,000枚に達している。

織物班の一部のメンバーは、マスク布の裁断やアイロンかけや紐の裁断また、包装などの業務につくことができた。利用者にとって未経験なことを、継続的に展開することによって大きな自信につながった。地域の方々もレストランにマスクを買いに来ることが多く、よりつながりを深めることができている。

① ③の取り組みを開始するにあたり新たに導入した生産設備・備品（経費・財源）等

- | | |
|-----------------------------|-------|
| 1 グループホーム食事配達のためのクーラーボックス | 約10万円 |
| 2 テイクアウトやグループホーム配食のための容器その他 | 約10万円 |

② 今後の課題・展望

- | |
|----------------------------------|
| 1 レストランへの来店客数の見通しをどのように考えればよいのか。 |
| 2 パンや弁当などの納品に伴う職員の不足をどのように補うか |



